

# サービス評価結果表

## サービス評価項目

(評価項目の構成)

### I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

### II.家族との支え合い

### III.地域との支え合い

### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ職員みんなで自己評価!  
ステップ外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ評価の公表で取組み内容をPR!!!

—サービス向上への3ステップ—

新型コロナウイルス感染防止対策を十分おこない  
訪問調査を実施しております

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市三番町6丁目5-19扶桑ビル2階
訪問調査日	令和4年3月17日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数)	14	(依頼数)	18
地域アンケート	(回答数)	7		

※アンケート結果は加重平均で値を出し記号化しています。(◎=1 ○=2 △=3 ×=4)

#### ※事業所記入

事業所番号	3871400259
事業所名	グループホーム 蘭
(ユニット名)	2棟
記入者(管理者)	
氏名	谷本 茂樹
自己評価作成日	令和 4年 1月 9日

<p><b>【事業所理念】※事業所記入</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○家庭的環境の中、人間尊重をお基本とする</li> <li>○尊厳のある生活を送る施設</li> <li>○生き生きさせてあげる</li> <li>○輝かせてあげる</li> <li>○職員もケアすることにより、共に成長する</li> <li>○利用者、家族、職員、地域の皆さんに安心してもらえる施設とします。</li> <li>○西予市にはなくてはならない グループホーム蘭</li> </ul>	<p><b>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】※事業所記入</b></p> <p>&lt;目標&gt; 利用者様が運営推進会議に参加したいか意思を確認する。</p> <p>&lt;取組内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○運営推進会議の目的を利用者様(ご家族)に説明し、参加したいかどうか確認する。</li> <li>○参加の希望のある利用者様には参加していた。</li> </ul> <p>&lt;結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナウィルスの流行のため会議自体が書類での報告となったため、実行できなかった。</li> </ul> <p>&lt;目標&gt; 気づきや工夫、アイデア、介護計画に基づいた記録をする。</p> <p>&lt;取組内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○もう一度、職員に記録について説明をする。</li> <li>○記録の様式を作成し、記録をしていく。</li> </ul> <p>&lt;結果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○コロナウィルスの感染対策のため、会議等を開けなかったことが多く、ほぼ実行できていません。少しずつ落ちてきたので取り組んでいきます。</li> </ul>	<p><b>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</b></p> <p>法人代表者は、定期的に道德に関する冊子を配布して、職員が人権や尊厳とは何かについて勉強する機会をつくっている。</p> <p>職員は、中庭の畑の世話や収穫、また、野菜の調理方法等、利用者にごつなどを聞きながら一緒にやっている。地元観音水のそうめん流しの話題から、薬味の好みやだし汁の話になる等、利用者にとって馴染みのある名称などを交えて話したり、活動につなげたりしている。</p> <p>パラスピックをみていた利用者から「ポッチャをしてみたい」と希望があり、皆で真似してやってみた。敬老の日には利用者と一緒におはぎをつくった。クリスマスにはじゃんけんしてサンタクロース役を決めた。年末には、正月に飾るしめ縄つくりをした。</p>
--	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>I. その人らしい暮らしを支える</b>										
<b>(1) ケアマネジメント</b>										
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	・入所時にご本人やご家族から希望や意向を聞いていますが、希望が伝えられない方もありますので、日々の生活の中で希望の把握に努めながら出来る限り叶えてあげたいと思っています。しかし、全てに対応することは難しいので、十分ではないとも感じています。	◎		△	入居時と、要介護認定更新時期(介護計画見直し時期)に、利用者個々の担当職員がセンター方式の私の姿と気持ちシートを作成しているが、記入は少ない。	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	・ご本人の立場になって考えながら、表情、会話、ご家族に相談しながら把握に努め、会議などで職員皆の意見を聞きながら検討しています					
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	・面会に来られた際に話を伺っていますが、コロナウィルスのため、面会者や面会回数は減っている。必要なら電話で伺っています。					
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	・個別の介護記録に一日の流れや、気付いた事や変化、分かりやすいようにご本人の言葉をそのまま書くようにしています。					
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	・見落としたり、間違っていることもありますが、決めつけない様に、ご本人との会話や表情に注意しながら、みんな話合っています。					
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	・入所時、入所後もご本人、ご家族から聞いています。必要なら各関係機関に問い合わせたり、面会に来ていただいたご家族やご友人にも聞かせていただいています。			○	入居時、利用者や家族から聞いた生活歴等の情報を情報書に記入している。 職員は、利用者のこだわりや大切にしていること等の情報をよく知っており、今後は、その情報を整理して介護計画に繋げていけるような取り組みをすすめてはどうか。	
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)の現状の把握に努めている。	◎	・入所時にこれまでの心身の状態や有する力、楽しみなどを聞き、生活の中で現状の状態を見極めています。					
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	・日々の生活の中で様子や変化を注意深く見、介護記録や申し送りなどで共有しながら把握に努めています。					
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	◎	・不安定になっている時の状況や行動、話した言葉、職員の関わり方の、成功、失敗例など、皆で話し合い、情報を共有しながら把握に努めています。					
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	・利用者様の利用期間、職員の勤務期間で差はありますが、介護記録や申し送りで把握しています。					
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	・コロナウィルス対策のため職員会など全体で話し合う機会は少なくなってしまっていますが、申し送り時や必要時に、自分の考えがズレていたらいけないので、職員に相談しながら検討しています。			△	計画作成担当者が、家族や職員に聞き取り、その情報をもとに検討している。	
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	・コロナウィルス対策のため職員全員で話し合う機会は少ないですが、適時、出来る範囲で検討し、必要に応じてご家族にも相談しています。					
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	・情報を共有しながら、課題が明らかになる様に検討しています。					
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	・可能な限り、希望に添えるように心掛けて計画を立てています。					
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	・日々のケアのあり方や課題を職員で話し合い、必要に応じてご本人だけでなく、ご家族にも相談するようにしていますが、コロナ禍で話し合う機会は少ない。	◎		△	計画作成担当者が、家族や職員に聞き取り、検討した内容をもとにして計画を作成している。	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	◎	・重度とか軽度にとらわれず、その方の状況や状態を考慮し、その方の安心、安全を考えた上で、事業所の力で出来る範囲で行っています。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	・協力が可能なご家族は、プランに盛り込まれていますが、地域の方は盛り込まれていません。必要ならばお願いします。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	・職員が集まる機会が減り、理解し把握し共有するのは難しいので、介護記録に記載し確認できるようにしています。			◎	介護記録に介護計画の支援内容や留意点を転記して共有している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	・職員の集まる機会が減って、状況確認を行うことが難しいが、実行した事を介護記録に記入し、日々の支援に繋げている。			△	検温表内に、計画内容に沿った具体的な支援(傾聴・手伝い等)の項目欄を設けて、毎日〇して実践できたかをチェックしている。 ユニットによっては、介護記録に介護計画の支援内容に振った番号を記入している。	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的な内容を個別に記録している。	○	・個別の介護記録に日々の暮らしの様子を記入しています。いつもと違う時や気になることがあった時には具体的に書くように心掛けています。				×	介護記録に記入することになっているが、記入はほぼない。
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	・職員の気づきや工夫、アイデア等を記入するスペースがあります。入所されたばかりの利用者様や変化があった時には細かく書けています。				△	口頭で行うことに止まっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	・入院や状態が変わった場合などは、その都度変更しますが、それ以外は期間に応じて見直ししています。			◎	計画作成担当者が責任を持って約一年ごと(個々の要介護認定更新時期、または、2月と決めている)に見直しを行っている。		
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	△	・皆で集まれる会議を利用して行うようにはしていますが、コロナウイルスのため集まる機会が減ったので現状確認は十分には出来ていません。			×	毎月のモニタリングや現状確認の取り組みは、行ったり行かなかったりしており、継続した取り組みには至っていない。		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	・状態に変化があれば、見直しをしています。				○	転倒等により身体状態に変化があれば見直しを行っている。	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	・平時は月2回の会議で話し合っていますが、コロナウイルスのため会議の回数は減っています。緊急時は必要に応じて、その日の勤務者や申し送り時に意見を交換し合っています。				○	新型コロナウイルス感染者数の状況が落ち着いている時期のみ、集まる職員会議を行い、議事録を作成している。その他は、会議は持たず、連絡帳や申し送りで職員の意見を聞いている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	・事業所の方針が、みんなで話し合って決めるようになってきているので、意見を出し合い、話し合いができています。						
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	・常勤の職員は夜勤明け以外は全員参加をすることになっているので、パートナーに助けをいただいたり、開催日を毎月10日の19:00からと月末の木曜日の16:00から決めて、1カ月前には全職員に知らせる工夫をしています。また、時間外手当もあります。						
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	・会議の資料を渡し、会議録を再確認のためにも全職員が閲覧で見られるようにしています。				◎	職員全員が会議録で内容を確認して、名簿に○をつけるしくみをつくっている。	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容や方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	・申し送り時に情報伝達し、伝えられない場合は連絡帳や回覧で情報を共有し、見たら必ずサインをするようにしています。				◎	ヒヤリハット記録などについては、回覧して内容確認を行い、名簿に○を付けるしくみをつくっている。家族からの伝言は、連絡帳に記入したり、口頭で伝えたりしている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	・日勤者が申し送り等で聞いた必要な情報を、その日の勤務者に伝え、それ以外の職員には連絡帳で情報を共有しています。		◎				
<b>(2) 日々の支援</b>											
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	・利用者様全員が、「その日したいこと」を決めてはもらえないので、希望のある方は叶えられるよう努力しています。希望の分からない方は、今までの生活歴や会話、表情や態度などで想像しながら、その日その日を過ごしていただいています。					新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできません。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	・基本は、利用者様の状況や状態に合わせて決定していますが、利用者様によっては、こちらで想像して決めさせていただく場面も多いです。				◎		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	・納得できない事もあるかと思いますが、可能な限り希望に添える様に本人の意見を確認しながら支援しています。						
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	・利用者様の状態や習慣、その日の状況や全体の安全を考えた上で、可能な範囲で支援しています。						
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うろたえ等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	・利用者様の得意な事を一緒にやり、日々楽しく過ごせるように努めています。				◎		職員は、中庭の畑の世話や収穫、また、野菜の調理方法等、利用者にコツなどを聞きながら一緒にやっている。地元観音水のそうめん流しの話題から、菓味の好みやだし汁の話になる等、利用者にとって馴染みのある名称などを交えて会話したり、活動につなげたりしている。
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるように支援している。	○	・意向に添えているかは分かりませんが、表情や様子に注意深く見ながら、その人らしい生活を送れるように努めています。						
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	・理念にもあるように職員全員で、人生の先輩であることを常に思いながら、言葉掛けや態度など意識して行動しています。	◎	◎	○	法人代表者は、定期的に道德に関する冊子を配布して、職員が人権や尊厳とは何かについて勉強する機会をつくっている。職員への気になる態度等がみられた際には、管理者から声をかけて話を聞くようにしている。		
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であらさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	△	・自分だったら、どうしてほしいのかを考え、介助するようにしていますが、日々の関わりの中で馴れ合いのような言葉の時もありません。				◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできません。	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	△	・利用者様の事を考えながら、さりげなく誘うように努めています。						
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	・声掛けを行ったり、バックなどをし、心掛けています。				◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできません。	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	・理解し遵守しています。						
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者をお世話される一方の立場におかず、利用者にも助けを借りたり教えたり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	・毎日、炊事、洗濯など手伝っていただいたり、分からない事は教えていただけたので感謝しています。						
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	・隣に居てくれるだけで安心できる関係や困った時には助け合い、お互い笑顔になれると良いと思っています。						
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者につまづき方を発掘してもらう場面をつくる等)	◎	・大切さは十分に理解しています。座る位置など状況に合わせてながら、可能な範囲で努めています。				◎	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできません。	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	・さりげなく、間をとりながら解消に努めています。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	・利用者様やご家族、その他関係者から教えていただいた範囲で把握しています。				/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	・個人差はありますが、利用者様やご家族、各関係機関から教えていただいた範囲で把握しています。					
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	・現在は、コロナ禍で制限が厳しいですが、基本的にはご本人の希望、ご家族の希望、知人や友人、馴染みの場所など、皆さんの希望が一致し、現実的に安全面など可能であれば支援できます。電話や限られたスペースでの面会は可能です。					
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	・コロナ禍で面会の制限が厳しいのが現実ですが、平時は、あいさつ等、明るいつもりを作り、居心地よく過ごしていただけるよう心がけていました。					
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度的場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	・コロナ禍で外出先など制限はありますが、利用者様の希望があれば敷地内など自由に外にでられます。	○	○	○	昨春には、小学校等の桜を見に行くことを支援した。人の集まらない時間帯に少人数で出かけるようにした。利用者から希望があれば、散歩を支援している。中庭にある畑の野菜の世話をしたり、ベンチでひなたぼっこをしたりできるよう支援している。  車いすの利用者も同じように支援している	
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	・コロナ禍で、積極的に外出支援は行っていません。安全面を考慮して、外出が必要な場合は、職員やご家族で対応しております。					
		c	重度の利用者も戸外で気持ちよく過ごせるよう取り組んでいる。	○	・希望があれば、重度も軽度に関係なく、戸外に出て過ごせます。			○		
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	・コロナ禍で制限は厳しく現実的には難しいですが、ご本人の希望とご家族の了解があり、安全が確保できているならば可能です。					
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	・不安を取り除くために、職員同士で情報を共有しながら要因を考察し、安心した生活を送れるように努めています。				職員と一緒に家事をしたり、畑仕事をしたりできるよう支援している。 パラリンピックをみていた利用者から「ポッチャをしてみたい」と希望があり、みまで真似してやってみた。	
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	・今までの生活の習慣や得意な事を継続していただき、足りない部分はレクリエーションや体操などを取り入れ、維持できるように取り組んでいます。					
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	・利用者様の力を見極めながら、状態に合わせて工夫しています。	○		◎		
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	・ご家族や、ご本人との会話の中で希望を聞きながら把握し、楽しみや役割を持って生活してもらえるように努めています。				季節行事を通して楽しみをつくらせている。敬老の日には利用者と一緒におはぎをつくらせた。クリスマスにはじゃんけんしてサンタクロース役を決めた。年末には、正月に飾るしめ縄づくりをした。	
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	・個々に合った役割を考えながら出番を作れるよう工夫しています。	○	○	◎		
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	・地域の中で、元気に過ごされている姿が、役割や出番になっていると思っていますが、コロナ禍で、地域との関わりは少ないのが現状です。					
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	・その方にあった髪型や服装になっており、化粧もされている方もあります				新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。  衣類は、家族が用意している。必要があれば、職員が、本人の好みを踏まえて買い物の代行をしている。訪問美容師を利用して、本人に直接希望を聞きながらカットしてくれている。	
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪型や服装、持ち物など本人の好みに整えられるよう支援している。	○	・ほとんどの方が、馴染みの物やご家族が買ってきていただいた物で整えられている。髪型もご本人の希望を聞いて、美容師さんにカットしていただいています。					
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	・その方の好みや持っている物の中から、一緒に悩んだり、アドバイスをしながら支援しています。					
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	・コロナ禍で、外出やイベントの機会がありませんが、普段から、持っておられる物の中から、ご本人に尋ねながら楽しんでいただいています。					
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	・気づいたらさり気なく教えたり、直したりしています。	◎		○		評価困難
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるよう努めている。	◎	・利用者様の希望とご家族とお店の了解があれば誰でも行けます。希望のない方でも、事業所に美容師さんが来ていただき、お洒落を楽しめることができます。					
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	◎	・本人らしさを保てない方はありません。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと		
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	・理解しています。						
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	・買い物には行っていませんが、調理の下ごしらえを手伝っていただいたり、食材を選んでいただいたり、食材から何を食べたいか、作り方など聞いて食事を楽しんでいます。			○	職員が献立を立てて、食材は注文して業者の配達を利用している。利用者は、野菜の下ごしらえをしたり、食器洗いをしたりしている。		
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	・調理の下ごしらえを手伝っていただきながらつなげている。						
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	・入所時にご本人、ご家族から聞き、普段の食事の様子をみながら把握しています。						
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	・季節の食材を使った献立にしたり、利用者様の食べやすい物に気を配っています。			◎	行事食のほか、しその実を採って炊いたり、サツマイモのツルを煮て食べたり、銀杏ご飯、栗やサツマイモご飯、菜飯など、季節に応じて利用者馴染みのある料理を手作りしている。野菜等、家族や地域からの差し入れ、また、畑で採れたもの等も使用している。		
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	◎	・利用者様に合わせ食べやすい切ったり器にも工夫しています。						
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	・入所時に馴染みの物を持ってきていただいたり、ご本人が使いやすいものを選んでいきます。				評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	・コロナ禍により、利用者様と職員と一緒に食べる事はしていませんが、安心して食べられる様に見守り等サポートはしています。また、時間ははずしますが同じものを食べています。					評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	・対面キッチンで音や匂いも感じられ、メニューの話をしたりして雰囲気作りにも努めています。			◎		評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	・食事、水分制限のある方には、量を計ったり、1日の水分量や食事量も個別でチェックし記録しています。						
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	・食事量、水分量を記録し、少ない時には声を掛けたり、栄養補助食品を勧めたり、食事の大きさや形態、食べる時間、水分にトミをつけるなどしながら取り組んでいます。						
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	・職員間で、調理方法や献立のバランスなどアドバイスあっています。栄養士に献立や栄養のバランスについて相談したこともあります。					○	定期的に話し合う機会はつくっていないが、献立作成時には、職員で話し合い、魚や肉を毎日採り入れタンパク質の摂取ができるように気を付けている。
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	・生協や畑、地域のお店を利用し、新鮮な食料を使用しています。また食中毒の対策に毎日、消毒や食器乾燥機などを使用しています。						
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	・理解しています。						
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	・確認できる範囲で把握しています。義歯の不具合や痛み等の訴えやサインがあれば歯科受診しています。			○	口腔ケア時に確認して、異常等があれば受診につなげている。自分で歯磨きを行う利用者についても職員が確認をしている。		
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	・研修に参加して、日常でも活かせるように努めています。						
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	・その方の状況に合わせて、定期的にポリドントを勧めたり、お手伝いをさせていただいています。						
		e	利用者の方を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	・ご本人の習慣等も踏まえながら声を掛けていただいたり、お手伝いをさせていただいています。					評価困難	新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	・必要な時は、その都度受診して、状況の改善に努めています。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	・研修などの参加により理解しています。				職員が気づいたことなどがあれば、他職員の意見等を聞き、その都度見直しを行っている。パッド等は、サンプルで試しながら検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	・研修などの参加により理解しています。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排便・排便の兆候等)	◎	・個別で回数や間隔などを記録し、習慣やパターンを把握できるように努めています。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎	・排泄は生きる意欲や自信につながる大切な事なので、見直しが必要と感じたら、その方の気持ちも考えながら、職員皆で話し合い慎重に決めています。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	・職員皆で、色々な角度から検討し、時には、ご家族や主治医、看護師にも相談しながら改善に向けて取り組んでいます。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	・利用者様に合わせた、タイミングや見守り、声かけを行っています。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	◎	・直ぐにおむつに頼るのではなく、適切なものを使うように、ご本人やご家族、職員皆で話し合い決めていきます。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	・利用者様の状態に合わせて、昼と夜で替えたりなど、使い分けています。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	◎	・運動や芋類やヨーグルト、水分などの飲食物の工夫もしていますが、どうしても便秘が改善されない場合は看護師に相談しながら対応しています。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	◎	・安全にゆとりのある入浴をするために希望に添えないこともありますが、可能な限り希望や習慣を大切にしています。	◎		◎	週3回、午後から個々にゆとり時間を取り、入浴を支援している。個々に、入るか入らないかの希望を聞き、入浴の順番や同性介助の希望に応じている。利用者によっては、入浴時、ひとりてくるような時間を持つよう支援するケースがある。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	・可能な方には、少しでも一人でくつろげる時間を作ったり、その方にあった入浴時間や温度、安心して入っていただくためにも同性介助を行っています。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	・できる所は、ご本人にさせていただいています。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いはせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	・無理強いはせず、順番を変えたり、時間を遅らせたり、声掛けのタイミングを工夫したりしています。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	・毎朝バイタルを計り、心配な方は入浴前に再度計ったり、看護師に相談しています。ご本人より体調不良の訴えがあった場合は、無理に勧めず入浴を見合わせています。				
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	・把握しています。				本人から希望がある場合、少量の服用を支援するケースはあるが、その他は薬剤の使用はしないで睡眠がとれるよう支援している。「眠れない」と起きてくるような利用者がいたら、職員がココアをつくって一緒に飲んだり、「お腹が空いた」というような利用者がいたら、小さい饅頭を食べてもらっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	・利用者様の状態を皆で考えて対応しています。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	・基本、眠剤には頼りませんが、眠剤を使用する時にはご本人の状態に応じて、ご家族、主治医に相談して行っています。			◎	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	・居室やリビングのソファなどで自由に休めます。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	・ご家族や、相手の方の了解があれば自由にできます。携帯電話を持っておられる方もあります。				/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	◎	・希望があればお手伝いをさせていただいています。お礼の電話を勧めたり、ご家族から連絡があればご本人と話をさせていただいています。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	◎	・自由に連絡されている方もありますし、気兼ねされる方は居室や静かな所で電話をさせていただいています。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	・ご家族に伝えたり、ご本人に電話をさせていただいています。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	・ご理解、ご協力をお願いしています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	・理解しています。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	・ご本人の希望があって、ご家族の了解があれば、お金の所持や買い物に行けますが、今はコロナ禍のため買い物は控えています。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	・コロナのためか、近くにあった理解のあるお店が無くなってしまった。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	・ご家族と相談しながらご本人に支援しています。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	・入所時にご本人とご家族に説明し、希望を聞きながら決めています。入所後も必要に応じて話し合っています。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	・毎月、預かっているお金の詳細を郵送し、来所時や入金時に確認していただきサインをもらっています。				
24	多様なニーズに応える取り組み	a	本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	・福祉用具の仲介や通院や買い物など希望があれば対応しています。	◎		○	病院受診に職員が付き添う支援を行っている。「自宅に写真を取りに戻りたい」と希望する利用者につき添った。利用者からの希望で、こだわりのボディソープを通販で買うことを手伝った。
<b>(3) 生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮	a	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	・花やベンチを置いたり、入りやすい様に玄関は開けています。	◎	◎	○	玄関までスロープや手すりを設置しており、ハンジーなどの鉢植えを飾っている。掃除が行き届いている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない放風風な共用空間等、家庭的な雰囲気をもとに考えられているか等。)	◎	・調理の様子が見えたり、一緒に洗濯物を干したり、季節のアクセサリーや花を飾っています。	○	○	○	評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	・毎日、掃除、消毒を行っている。気になるところがあれば、その都度対応しています。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	・季節の花を飾ったり、季節の食材や話題なども意識しています。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	・気の合う利用者様同士がソファで過ごしたり、居室で一人、ゆっくりされたり、自由に過ごされています。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	・構造上、直接見えない様になっています。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮	a	本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	・居室は、危険でなければ自由に使って良い事を、入所時に、ご本人とご家族にお伝えしていますので、馴染みの物など持って来られ自由に過ごしていただいています。	◎			評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	・案内板を目線の高さに貼ったり、手摺やバリアフリーで安全にも配慮しています。				評価困難 新型コロナウイルス感染症対策に伴い、ユニットの立ち入りを中止したため評価はできない。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	・不安や混乱、失敗を招くような環境や物品については、その利用者様の立場に立って検討し、その方に合った対応を行っています。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に入るように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほろろ、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	・雑誌や湯飲みなど自由に手に取れる所に置いています。裁縫道具など危険が伴うものは、使用する時に出すようにしています。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	・理解しています。	◎	◎	◎	日中、玄関は施錠していない。職員は、日中は鍵をかけず対応することが当たり前と認識している。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	・施錠を望むご家族があれば、ご理解いただけるよう話し合いをします。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけるなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	・夜間以外は鍵をしないので、防犯も兼ねて、玄関の出入り時にセンサーチャイムが鳴るようになっています。				
<b>(4) 健康を維持するための支援</b>									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	・入所時の情報などを職員皆に周知していますが、入所してから知ることも多いので、その都度、会議や介護記録によって周知把握しています。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	・毎日、バイタル測定を行い、行動、表情など、変わった事や気になることは介護記録に記入しています。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重症化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	・24時間、看護師と連絡がとれ、いつでも相談ができ、かかりつけ医との対応や受診を行っています。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	◎	・入所時に、ご本人、ご家族の希望を聞き決めさせていただいています。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	・事業所の看護師が支援しています。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	・看護師が話し合いを行っています。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	・看護師が行っています。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	・看護師が行っています。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	・看護師が行っています。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	・気づきを看護師に相談しています。かかりつけ医や協力機関には看護師から相談しています。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	・看護師と24時間、相談ができる体制が出来ています。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	・常勤の看護師が対応しています。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	・理解しています。薬の目的や副作用、用法や用量は、いつでも確認できる様になっています。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	・薬箱に薬を準備する時、薬を飲む時に名前と何時の薬か、服薬後に的確に飲めたかを確認しています。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	・日常的に行っています。変化があれば看護師に相談、報告し、職員皆で共有しています。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	・変化があれば直ぐに看護師に相談し、必要に応じて看護師が主治医やご家族に報告し、相談しています。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	・看取りケアを行っていませんが、段階に応じてご本人、ご家族と話し合いをしながら方針を決めさせていただいています。				現在、事業所の方針で看取り支援は実施していない。状態変化時には、医師、家族、職員で終末期の在り方について話し合っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	・看護師、管理者によって話し合いを行い、意向の確認、共有を行っています。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	・看取りケアは行っていませんが、ご本人、ご家族の思いや希望をどこまで支援できるか、みんなで話し合いながら行っています。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	・入所時に説明させていただき、入所後は状況に応じて、理解を得られるようにその都度話をさせていただいています。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	・ご本人、ご家族の心の準備が出来るように、状況に応じた予想される今後の変化を話し合い、希望される内容をかかりつけ医と共有しながら体制を整えています。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	・看護師、管理者、職員によって、ご家族が不安にならないように話し合っています。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	・コロナ禍で、学ぶ機会は減っていますが、平時は研修会に参加したり、事業所の会議等を利用して勉強会を行っていました。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	・対応できるようにマニュアルを作成し訓練をしていましたが、コロナ禍で職員が集まる事が出来ず、最近は行えていません。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	・インターネットや市役所など色々な所から情報は得ています。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	・ニュースやインターネット、市役所などから情報を集め対応しています。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	・1ケア、1手洗いを心掛けています。来訪者にもマスクの着用、手指消毒、検温、体調の確認などお願いし、温かいご理解ご協力をいただいています。				



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
<b>II. 家族との支え合い</b>										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	・喜怒哀楽を共にするために、毎月、近況報告を送っています。急を要する時は、電話や面会時に話をさせていただいています。また、外出や買い物、病院受診など可能な方には力を借ります。					
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	・コロナでの制限はありますが、面会時には、挨拶や湯茶を出したり、居心地よく過ごしていただけるよう、ご家族や雰囲気に合わせて席を外したり、声を掛けたりしています。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	×	・平時は、運営推進会議や家族会に参加していただいていたのですが、現在はコロナ禍で、機会は作れていません。		○		○	家族の面会時(12月)に、会話の流れから、家族がサンタクロースの仮装をして利用者を喜ばせてくれたようなことがあった。
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	・利用者様の普段の状況が分かるように、毎月、写真付きの近況報告と通信を送付しています。		◎		◎	毎月の事業所通信とともに、利用者個々の近況報告を添え、送付している。
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	◎	・面会時などで話す機会があると、気になることや心配されている事など聞くようにしています。また、心配事が無いと話されるご家族にも、会話の中から汲み取るようにしています。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	・面会の際に、ご家族の様子を伺いながら会話に参加させていただいたり、手紙で伝えるようにしています。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	・毎月の通信で報告しています。重要な事は書面にし、送付しています。		△		△	事業所通信に行事の様子や職員紹介(1月)を載せて報告している。設備改修や機器の導入については報告を行っていない。この一年間では、トイレ改修などを行っている。運営推進会議(書面開催)の報告書は、家族代表者に送付している。
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	・平時なら、年に2回、家族会を行い家族同士の交流を行っていましたが、現在はコロナ禍で、控えています。					
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	・入所時に説明し、入所後も状況に応じて、起こり得るリスクと可能な対応策を話し合っています。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	・面会時にさり気なく聞くようにしています。また、看護師が病院受診と一緒にいった時や結果の報告時も話を聞いています。				○	面会時や電話で話す際に、気になることはないか聞いている。
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	・入居時と必要時に、施設長、管理者が説明を行い、理解、納得を得られるようにしています。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	・ご理解、納得していただけるよう説明し、安心して退居先に移れるよう支援しています。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	・変更時には施設長が文書で示し、同意を得ています。					
<b>III. 地域との支え合い</b>										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	・設立時に説明会を開き、運営推進会議には地域の方にも参加していただいています。			◎		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	・平時は、地域の活動や行事には積極的に参加していますが、コロナ禍で機会は減っています。		○	○	隣接する保育園とは窓越しに交流がある。利用者から折り鶴をプレゼントすると園児からお礼の手紙が届いたりする。小学校から「人権の花」をもらい、玄関に飾っていた。地域の婦人会からは年末に、正月用のしめ縄をもらった。さらに、事業所からも発信できるものはないだろうか。運営推進会議等を活かして話し合ってみてはどうか。	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	・グループホームという施設がどのような物かは理解が増えたと思います。					
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	・基本、コロナ禍で控えていただいています。野菜などは気軽に持って来ていただいています。					
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	・挨拶など気軽に声を掛け合っています。					
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	・平時より、働きかけはしていませんが、地域行事等のお誘いを受けていました。しかし、今はコロナ禍で控えています。					
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	・理解ある地域で、安全に楽しく暮らせています。					
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができ、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	・コロナ禍で、最近では控えていますが、学校等との交流会や地域の行事への参加を通して、事業所の事を理解していただき関係を深めています。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	◎	・平時は利用者様からの希望がなく参加されていませんが、ご家族、地域の人たちの参加はあります。しかし、今はコロナ禍で、書面での報告とさせていただきます。	○		○	会議は書面で行い、家族代表2名、公民館館長等、地域住民、保育園、他事業所に報告書を送付している。	
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	・報告しています。			○	報告書で、利用者や事業所の状況、事故やヒヤリハット発生件数等を報告している。また、事業所で新型コロナウイルス感染症クラスターが発生した際の状況報告を行っている。外部評価実施後は、報告を行った。	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	◎	・平時は意見や提案を聞き、サービスの向上に活かしていましたが、今は、コロナ禍のため、書面での報告をさせていただいています。まだ提案等はいただけていません。			◎	△	報告書に「お気づきの点や運営に関してアドバイスやご意見がございましたら連絡をお願いします」と記しているが、返信はほまないため、サービス向上に活かしたり、その報告をしつづける取り組みには至っていない。
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	・平時は配慮、工夫をしていましたが、今はコロナ禍のため、書面での報告とさせていただきます。				○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	◎	・誰でも見られるように、玄関先に掲示しています。					
<b>IVより良い支援を行うための運営体制</b>										
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	・職員全員が覚え、実践に繋げるように取り組んでいます。					
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	・事業所の見やすい所に掲示し、運営推進会議の資料にも毎回、記載しています。	○	○			
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	・好きな研修を自由に受けられるが、コロナ禍で、今は控えています。					
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	・平時は、研修に行った職員が職員会議で研修内容を報告してもらい、職員皆のスキルアップに繋がるように取り組んでいます。					
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	・賞与などに関しては、努力、勤務状況を考慮している。					
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	△	・平時は、地域密着型サービス協会が行う、グループホームの職員が集まる研修に参加させていただいたり、他事業所の運営推進会議に参加させていただいています。					
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	・平時だったら、施設長がリフレッシュ休暇や飲み会等を開いていただいたりします。また、普段から積極的に職員に声をかけ、職員の体調やストレスを気遣っています。			○	○	○
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	◎	・理解しています。					
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	・職員会やユニット会で虐待がないか確認し、話し合っています。					
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	・理解しています。				○	12月に職員会を開催した時に、虐待について勉強している。
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	・職員の表情や動きには注意している。					
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	・理解しています。					
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	・身体拘束適正化委員会があり、職員会議で話し合っています。					
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	◎	・理解を図っています。					
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	・研修などに参加し、理解に努めています。					
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	・相談があれば対応します。					
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	・対象の利用者があれば対応します。					

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	・何かあれば、施設長、看護師に相談し対応しています。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	・定期的に消防署に指導に来ていただいたり、研修に参加していましたが、現在はコロナ禍で、控えています。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	・アクシデントやインシデントがあれば、直ぐにヒヤリハットで周知し、月2回、ヒヤリハット対策委員会が、職員が集まる会議等を利用して、皆で再検討し再発防止に努めています。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	・月2回、ヒヤリハット対策委員会が、職員が集まる会議等を利用して、皆で再検討し再発防止に努めています。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	・マニュアルを作成し、苦情があれば管理者が対応し、職員に報告、検討しています。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	・苦情があれば対応しています。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	・苦情があれば行っています。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	・意見箱を設置し、日々の会話や表情、態度でも確認するようにしています。			○	日々の中で聞いている。利用者からテレビの位置について意見があり、見やすい位置を話し合いながら配置換えをした。畑に植える野菜や世話の仕方等、畑に関することは利用者に聞きながら行っている。  家族と話す時には、「何かないですか」と聞くようにしている。面会の方法については、家族の気持ちや要望等を大切に検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	・入所時に事業所の相談窓口、第三者機関、意見箱の設置等の説明をし、面会時にも聞くようにしています。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	・面会時等で話を聞いていて、必要と感じた時には第三者機関を勧めています。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	・現場に来られた時や職員会議で毎回、意見や要望を聞かれています。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	・利用者様の事は、考えが偏らないように皆で意見や提案を出し合って決めています。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	・職員全員で取り組んでいます。				外部評価実施後は、自己・外部評価内容、目標達成計画の内容を報告している。モニターについては、会議メンバーにお願いするところでは止まっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	◎	・活かしています。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	・十分ではないかもしれませんが取り組んでいます。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	・報告、お願いをしています。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	・確認し、報告をしています。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	・マニュアルを作成し、周知しています。				毎月1日に、事業所内で火災想定(毎回出火場所を替えて)の避難訓練を行っている。災害時には、建物内のホールを地域の人に開放することになっている。さらに、運営推進会議を活かして災害時の協力支援体制について、具体的に話し合うような取り組みをすすめてはどうか。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	・毎月、避難訓練を実施しています。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	・非常用食品等は、定期的に行っていませんが、消火設備は業者さんが定期的に行ってもらっています。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	・今はコロナ禍で控えています。平時は、消防署に指導に来ていただいたり、運営推進委員の方に手伝っていただいています。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	・今までに職員は参加したことはありませんが、現在はコロナ禍で、共同訓練があったとしても見合わせると思います。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	・今はコロナ禍で十分ではないですが、事業所のホームページで発信しています。				相談支援する取り組みは行っていない。事業所が持っている機能を地域に広く伝えてはどうか。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	・相談があれば行います。		△	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェイベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	・要望があれば、いつでも開放して利用いただけます。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	・要望があれば受け入れに協力しています。養護学校の生徒を受け入れました。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	・地域イベントに参加していましたが、コロナ禍で控えています。			×	